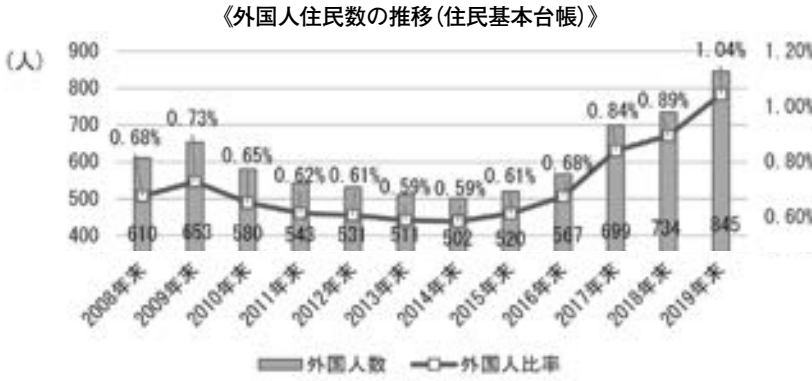


外国人住民に関する調査研究結果

2019年度、本市と神戸大学の共同研究として「外国人住民に関する調査研究」を行いました。調査の目的は、多様性を受け入れ、支え合うまちづくりを推進するため、年々増加する外国人住民の現状把握と課題を明らかにし、今後の取組みを検討することです。研究結果を報告します。

《問合せ》 政策調整課 ☎21-9022



本市の外国人住民

外国人住民数の推移

人口減少が進む一方で、外国人住民は2019年末で845人(人口の約1%)と増加傾向にあります。

外国人住民の内訳

本市にはベトナム、中国、フィリピン、韓国・朝鮮、インドネシア出身者が多く、また、約20カ国もの多彩な国籍の方が住んでいます。技能実習生など、特定の職業や活動を行い、1年から数年単位の期間で日本に住む人(以下、外国人住民(短期))と、永住定住などの在留資格を持ち、長期に(または期限なく)日本に住むことが可能で、職業も

選択できる人(以下、外国人住民(長期))がいます。本市で近年増加しているのは、外国人住民(短期)です。

調査の概要

18歳以上の外国人住民702人に質問紙調査を実施し、272人(38.7%)の回答がありました。1642件の市内事業所に質問紙調査を実施し、327件(19.9%)の回答がありました。外国人住民69人、市内事業所33カ所、関係団体等19カ所に聞き取り調査を実施しました。

調査結果

外国人住民

▼技能実習生やインターンシップ生等の外国人住民(短期)は20歳代が多く、仕事への満足度や住みやすさとともにおおむね高評価でした。また、日本人の友人が欲しいという意見もあり

ました。

▼約9割の人が本市に来てから日本語学習をしておらず、日本語能力が不十分だということも分かりました。

▼外国人住民(短期)の来日の動機は、送り等の経済的なものだけでなく、自分のために遊学したいなどのさまざまな動機があることが分かりました。

▼外国人住民(長期)については、主に国際結婚層と日系人等の定住者層があります。

▼国際結婚等で定住している方はサポートすべき対象というだけでなく、2カ国語を操るグローバルな人材となり得ることが分かりました。

外国人雇用事業所

▼外国人従業員の雇用をしている事業所が40カ所あることが分かりました。漁業、製造業(食品以外)、宿泊業での雇用が多くなっています。

▼採用理由は、全体の85%が「人手不足」でしたが「外国

人の能力が必要」との回答もありました。

▼外国人の採用ルートは、主に監理団体、仲介業者、ハローワークです。

▼外国人雇用の満足度は「満足」はほぼ満足が95.5%となっており、今後の雇用については「現状維持」増加が80%でした。

今後の取組み

▼外国にルーツを持つ子どもたちや、地域住民と外国人住民との関わり等について、さらに調査、研究を進めます。

▼外国人住民、関係機関、事業所、市等がチームとなつて、ネットワークの構築や情報共有等を図り、多文化共生のための戦略を策定します。

▼本市における多様な外国人住民の暮らしを広報します。

※外国にルーツを持つ子どもが外国出身者である子ども

※掲載している情報は編集時点(4月13日)のもので、変更になっている場合がありますので、ご注意ください。

植村直己冒険賞授賞式・記念講演会は延期します

2019「植村直己冒険賞」受賞者は 世界初「ブラインドセーリング」による無寄港太平洋横断 岩本光弘さん

6月6日(土)に予定していた2019「植村直己冒険賞」受賞者の岩本光弘さん(53歳、アメリカ・サンディエゴ在住)の授賞式・記念講演会は延期します。

日程が決まり次第市広報やホームページなどでお知らせします。「ネバーギブアップ」の精神で、数々の困難や失敗を乗り越えて夢を実現した岩本さんの冒険については、広報とよおか3月号2~3ページをご覧ください。

「植村直己冒険賞」とは

国民栄誉賞を受賞した世界的な冒険家の故植村直己さんの精神を継承し、周到に用意された計画に基づき、不撓不屈の精神によって未知の世界を切り拓くとともに、人々に夢と希望そして勇気を与えてくれた創造的な行動(業績)について表彰しています。

▼創設 1996年

▼主催 豊岡市

▼賞の対象

極地、山岳、海洋、空等の自然を対象とし、日本または世界各地において、人間の可能性に挑んだ創造的な勇気ある行動(業績)を対象とする。

▼選考

「植村直己冒険賞」選考委員会を設置し、同委員会で選考する。



▲岩本光弘さん(写真提供：ダグラス・スミスさん)

▼選考委員

石毛直道さん(国立民族博物館名誉教授)

椎名 誠さん(作家)

西木正明さん(作家)

山極壽一さん(京都大学総長)

中貝宗治(豊岡市長)

《問合せ》生涯学習課 ☎23-0341

北但大震災の記憶を風化させない

今から95年前の大正14(1925)年5月23日午前11時9分ごろに起こった北但大震災では、豊岡・城崎地域を中心に428人が亡くなり、1,712戸が全焼するなど、甚大な被害が発生しました。

風水害と違い、地震は何の前触れもなく発生します。そのため、発生してからどうするかよりも、発生前にどれだけ備えるかがより重要です。

まずは「住宅の耐震診断」や「家具の固定」から始めましょう。

【北但大震災メモリアル写真展は中止します】

災害の記憶を風化させることなく、防災・減災対策に生かすため、毎年この時期に、北但大震災メモリアル写真展を開催していましたが、今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止とします。 《問合せ》防災課 ☎23-1111



▲大災害に見舞われた豊岡町市街地

※掲載している情報は編集時点(4月13日)のもので、変更になっている場合がありますので、ご注意ください。